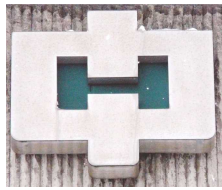


教育目標 「豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒」

重点目標 「豊かな心 確かな学力 健やかな身体」



あ さ ひ こ
朝 日 子

佐渡市立畑野中学校 学校だより

平成29年 11月21日(火) 第16号

著・編 校長 加藤雄一郎 (TEL 66-2058)

大トリを飾る素晴らしいハーモニー♪

市中学校音楽発表会で、畑野中は全校合唱「～21世紀に生きる君たちへ～ 決意」(組曲「未来への決意」から)を9日(木)、全演奏の大トリで披露しました。文化祭の時より数段レベルアップしたきれいなハーモニーが、アミューズメント佐渡いっばいに響き渡りました。文化祭後、何度かの全校合唱練習を積み、日々上達していくのが分かりました。当日は、“未来への決意”を込めて、全校の歌声になっていました。なかなか難しい4部合唱でしたが、立派に歌い上げました。ピアノの音色も力強く響きました。畑中生の思いが伝わった素晴らしい合唱でした。よりよいものに全校で作りに上げていく過程はとても尊く、心意気と一体感を感じました。

また、今年は前半の司会を畑野中が任され、3年生の青木さん、加藤さんが終始落ち着いて立派に大役を果たしました。中村生徒会長も堂々と学校紹介をしました。他校の演奏もしっかり聴き、鑑賞カードにメモを取りながら鑑賞態度も立派でした。歌い終わって来た生徒の顔はやや“どや顔”に見えたのは私だけではないでしょう。とても立派でした。

最後の音楽発表会

3年 金子

文化祭では私なりに今まで練習したことが発揮でき、70周年にふさわしい文化祭になったと思います。そして今回の音楽発表会で畑中が大トリと聞き、プレッシャーと不安でいっぱいでした。家に帰ると文化祭の時よりもいい伴奏が弾けるように強弱やテンポなどを工夫しながら練習をしました。

そして本番では、みんなが歌で盛り上げてくれて、私も気持ちがいい演奏をできました。今まで頑張ってきた成果が出てとても嬉しかったし、畑中が丸となって大トリが成功してよかったです。なにより、今まで応援してくれた先生方、地域の皆様、そして全校のみんなに感謝したいです。



伝統として

音楽担当 岩崎 かおり

合唱曲「決意」は、畑野中学校創立70周年というこの年にふさわしい曲だったと思います。

とはいえ、難易度が高く初めての混声4部合唱ということで、4つのパートが合わせられるようになるまでには多くの時間を費やしてきました。でも、練習をすればするほど確実に歌えるようになっていく生徒たちの姿は頼もしく、しだいに手応えを感じるようになっていきました。

音楽発表会本番は、冒頭のハーモニーを聴いた時、最高の心地よさを感じ、生徒たちと舞台上に立ってられる幸せに浸っていました。曲に重ね合わせるように、畑野中学校の全校合唱の素晴らしさを、伝統として伝えていきたいと強く感じました。



最高の音楽発表会 1年 青木

練習では、なかなか4つのパートが1つにまとまることができませんでした。しかし、他の学校の合唱を聞いて、「やってやるぞ!」という気持ちになりました。

僕は練習中に言われたことを意識しながら一生懸命歌いました。歌った後の達成感が強く、畑中が1つになったと思いました。会場内に響きわたった畑中の“決意”は最高でした。

歌い切れた喜び 2年 中村

音楽発表会を終えて、発表会最後の締めとしてふさわしい合唱だったと思います。リハーサルの時から心を一にして全力で歌っていて、僕はこのとき本番絶対成功するなと思っていました。

そして、本番の時、緊張している人もいたけれど、みんなの大きな声でフォローし合い、歌い切れたので良かったです。来年もこんな発表会になるように頑張りたいです。

「メタ認知力」を生かせ 全校朝会 校長講話より

文化祭後、各学年の廊下には文化祭での感謝や感想を学年を越えてメッセージが貼ってありました。

その中で合唱について、自分たちの合唱や他学年の合唱をよく聴いて、分析しているコメントが多くありました。例えば、「ソプラノ、アルト、男性のハモリが良かった。」とか「練習では『心』『いとおいしい』など1番と2番で違うところを毎回というほど間違えていたけど、本番ではゼロだったので良かった」などです。

感心するのは、自分自身や自分たちの行動を客観的に見て、どうすればよいかを考えているところです。何かをする時、このように「自分を振り返る力」がとても大事です。「自分を振り返る力」とは、自分の行動や性格を客観的な視点からよく観察・分析し、対策を講じる力のことで、「メタ認知力」と言います。

「メタ」とは「高い次元の」とか「超えて」という意味ですが、「メタ認知」は少し高いところから自分自身を見つめることを言います。この「メタ認知力」が高い人は、自分を客観的に見ることができるので、ミスが少なくなったり、効率よく自分を伸ばすことができたりするのです。

学習で言うと、自分はどこまで分かったのか、どこがまだ分かっていないのかを、自分で具体的に言える力とも言えます。例えば、数学の計算で間違ったとすると、なぜ間違っったのか指摘できるとともに、自分のミスの傾向を知り、どうすればミスを防げるかを考えられるということです。

間違えたり、ミスしたりしたっていいのです。実は間違えて、「なんで違うの?何でそうなるの?」と考えるところに、考える力を鍛えるポイントがあります。正に「間違っった時が、チャンスなのです」。私も中学生の頃、英語の文法をよく間違えましたが、その理屈を理解することで逆に文法の仕組みが分かり、英語が得意になりました。なぜ間違えたのか、どうやればよいかを分析する「メタ認知力」を鍛えるとよい。

では、どうすれば「メタ認知力」を鍛えることができるのでしょうか。「なぜ、自分はうまく解けなかったのか、どこで間違っったのか」を考え、「問題を解くのに、何が必要だったのか」という教訓を問題から引き出して、そのことを書き出すとよいのです。

例えば数学では、よく図や表を書くこと、定義を確認することが、ポイントだったりします。式を作れない時、表や線分図に表すと作り易くなります。そこで、「表や図を書いてみる」という教訓を書き出すのです。また、計算の途中式を省いて幾つかのことを同時にしてしまい、間違っっているもったいない人がいます。そうであれば、「途中式をちゃんと書く」という教訓を書き出し、ミスを減らすのです。既にノートに書いている人はその力が付いています。しかも、後で見た時目立つように吹き出しにしたり、目立つ色で書いたりするとよい。自分の言葉で書くこともコツです。特に数学は、正誤がはっきりしているので考え易いです。

分かったフリをしても、自分をごまかせないので進歩はしません。分からないことに正面からぶつかってください。「分からない」と言うことは恥ずかしいことではなく、分からないままにしておく方が恥ずかしいのです。そして、自分で解決できない時は、友達や先生方に聞くのが早いです。ただし、そこでも分かったフリをしないで、納得するまで聞いてみてください。そして、分かったなと思ったら、自分で似た問題をいくつも練習しましょう。そうしないと本当に分かったかどうか、確認できません。この練習が足りなくて、本当に理解するまでいかない人もいます。もう一押しあるとよいのです。

もう一つ大事なことを話しましょう。皆さんは毎日課題や宿題をやっています。それで安心していませんか。実は、毎日課題は「学習習慣を付け、基礎学力を付けること」をねらいにしています。学習習慣として、生活の一部にすることに意義があります。朝起きたら顔を洗ったり、給食後歯磨きをしたりするのと同じです。いつもやる習慣にすると苦にならないでしょう。毎日課題がたまっている人は、習慣化されていないので、やるのが当たり前、やる時間帯も決めてやるとよい。

ただ毎日課題や宿題を出せば、それでよいということではないのです。なぜでしょう。ここでも「メタ認知力」が働いているかどうか重要です。課題を提出したかどうかは大事なのではなく、できない問題に出くわした時、自分で調べたり、教えてもらって分かったことを使えるようになったり、間違えたとところを納得できるようになったりしたかが大事なのです。毎日課題は復習が中心ですので、繰り返し自分の弱いところを練習する学習です。もちろん分かっていることの確認もあります。提出するだけでなく、本当の理解を伴ったものにしていく必要があるのです。毎日課題は最低限やることとして、そこから間違えたとところや自信のなかったところを、とことん練習する時間を取りましょう。これが本来の勉強です。

「間違っった時が、チャンス」「自分をごまかさず、納得できるまで取り組んでみましょう」

